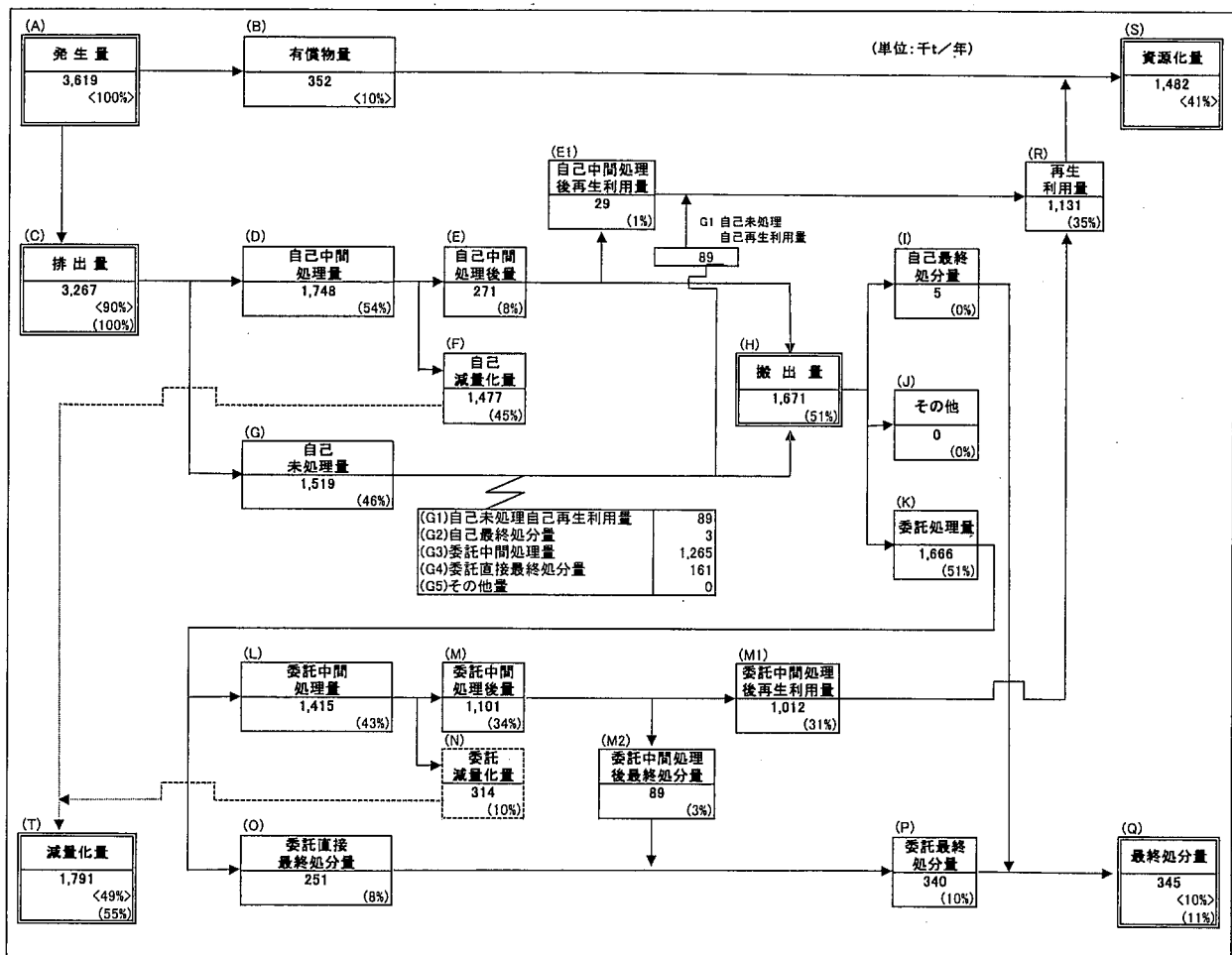


第3節 処理状況

1 発生から処理・処分までの流れ

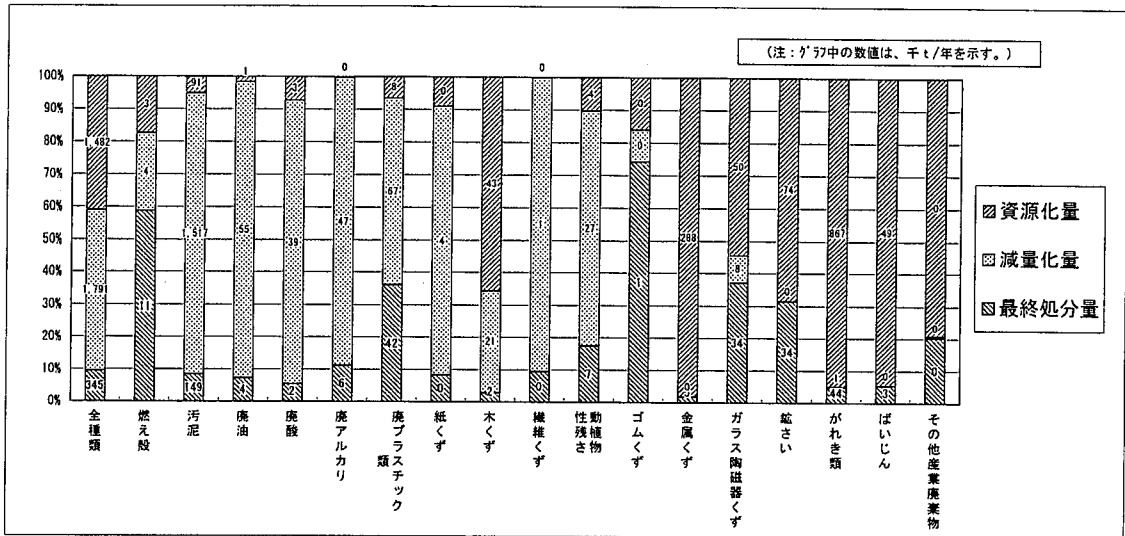
発生から最終処分までの産業廃棄物の流れは、図 2-3-1 に示すとおりである。



注: < >内は発生量に対する割合。()内は: 図2-3-1 排出から処理・処分の流れ

図 2-3-1 発生から処理・処分までの流れ

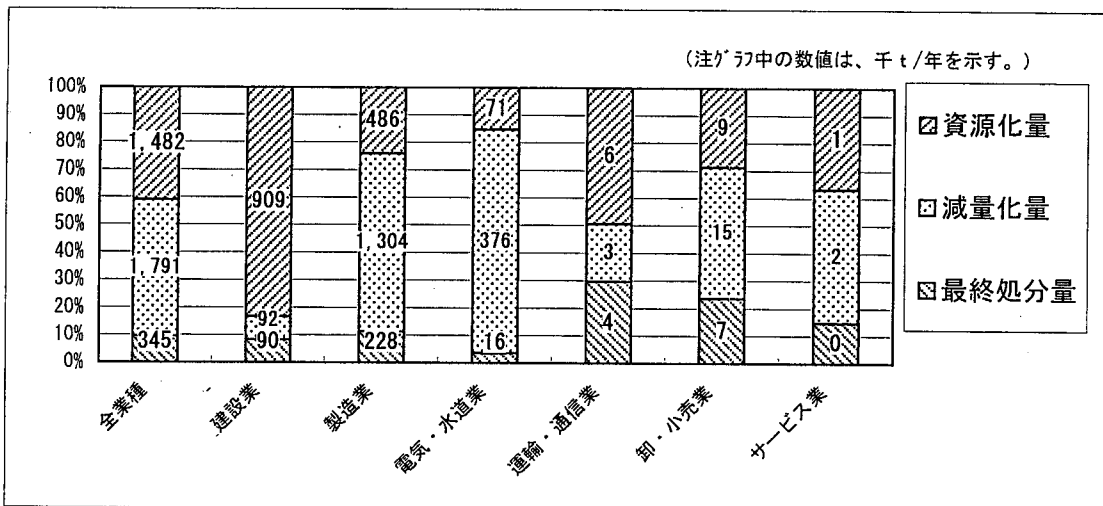
発生量に対する資源化量、減量化量、最終処分量の構成比を種類別、業種別にみると、図 2-3-2、図 2-3-3 に示すとおりである。



(千t/年)	全種類	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	動植物性残さ	ゴムくず	金属くず	ガラス陶磁器くず	鉱さい	がれき類	ばいじん	その他産業廃棄物
発生量	3,619	10	1,780	61	45	53	119	4	69	1	38	1	293	92	109	912	52	0
資源化量	1,482	3	91	1	3	0	8	0	43	0	4	0	288	50	74	867	49	0
有償物量	352	0	60	1	3	0	4	0	6	0	3	0	228	3	0	43	0	0
再生利用量	1,131	3	31	0	0	0	4	0	38	0	1	0	60	47	74	824	49	0
減量化量	1,791	4	1,517	55	39	47	67	4	21	1	27	0	0	8	0	1	0	0
最終処分量	345	11	149	4	2	6	42	0	2	0	7	1	5	34	34	44	3	0
その他量	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

注：この表における各種別の処理状況は、発生量に対する処理量の割合を示すために、中間処理等による物質の変化したものが考慮されていない。
 例えば、廃酸、廃アルカリ、廃油等に最終処分量が表示されているが、実際には、焼却等により燃え殻となったものが最終処分されている。
 注：千t未満を四捨五入しているため、内訳は合計に一致しないことがある。

図2-3-2 種類別の発生量に対する資源化量、減量化量、最終処分量等の構成比 <変換>



(千t/年)	全業種	建設業	製造業	電気・水道業	運輸・通信業	卸・小売業	サービス業
発生量	3,619	1,091	2,018	463	12	31	3
資源化量	1,482	909	486	71	6	9	1
有償物量	352	49	239	60	0	2	0
再生利用量	1,131	860	247	11	6	7	1
減量化量	1,791	92	1,304	376	3	15	2
最終処分量	345	90	228	16	4	7	0
その他量	0	0	0	0	0	0	0

図2-3-3 業種別の発生量に対する資源化量、減量化量、最終処分量等の構成比

2 自己中間処理状況

自己中間処理量は、1,748 千 t となっており、排出量 3,267 千 t の 54 % を占めている。

種類別にみると、汚泥が全体の 85 % で最も多く、以下は、がれき類 6 %、廃プラスチック類 2 %、廃酸 2 % などとなっている (図 2-3-4)。

種類別に排出量に対する自己中間処理量の割合と、自己中間処理量に対する自己減量化量の割合をみると、図 2-3-5 に示すとおりである。

自己中間処理される割合が高いものは、汚泥(89%)、廃酸(80%)、繊維くず(63%)で、自己中間処理による減量化率が高いのは廃アルカリ(100%)、廃酸(99%)、繊維くず(97%)、動植物性残さ(95%) などである。

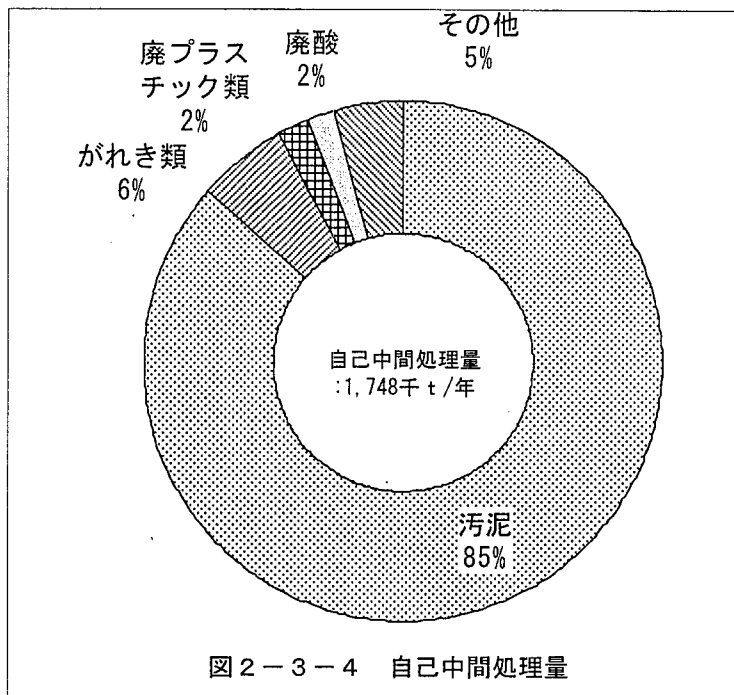


図 2-3-4 自己中間処理量

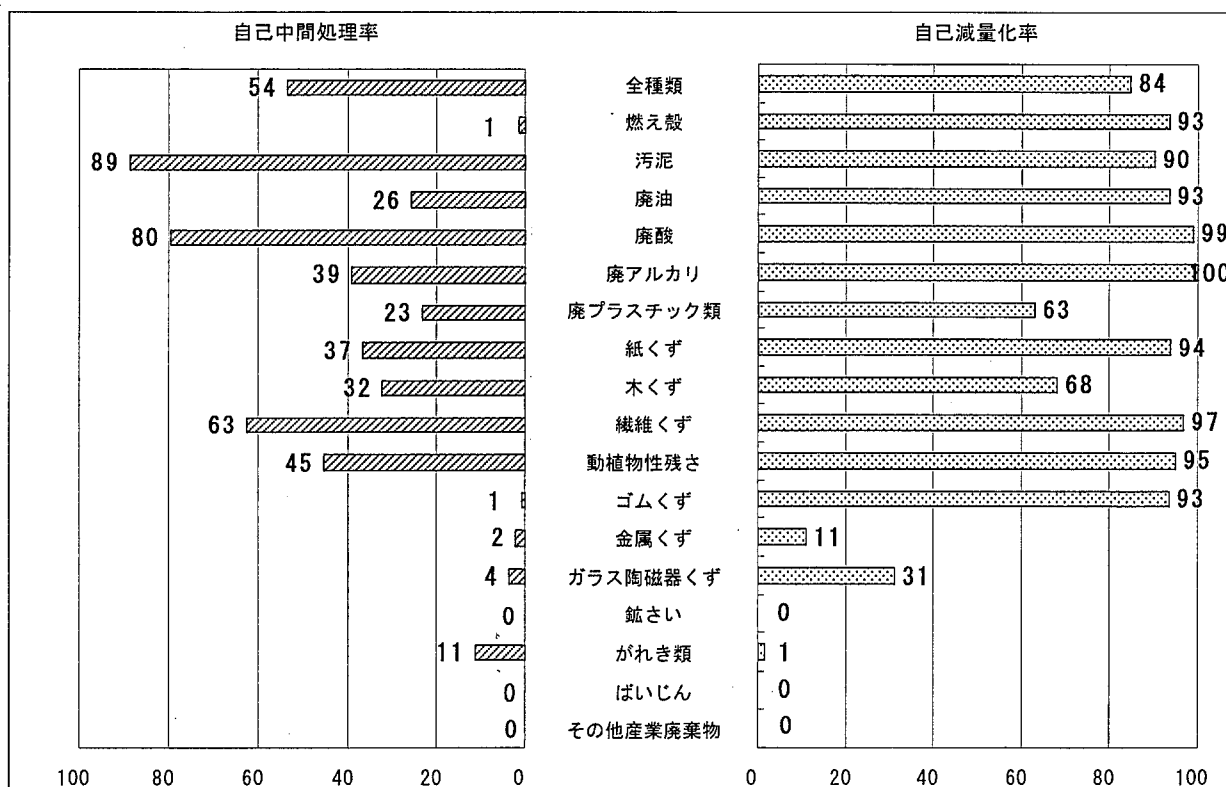


図 2-3-5 自己中間処理率と自己減量化率

備考 自己中間処理率 (上左図)・・・排出量に対する自己中間処理量の割合 (%)

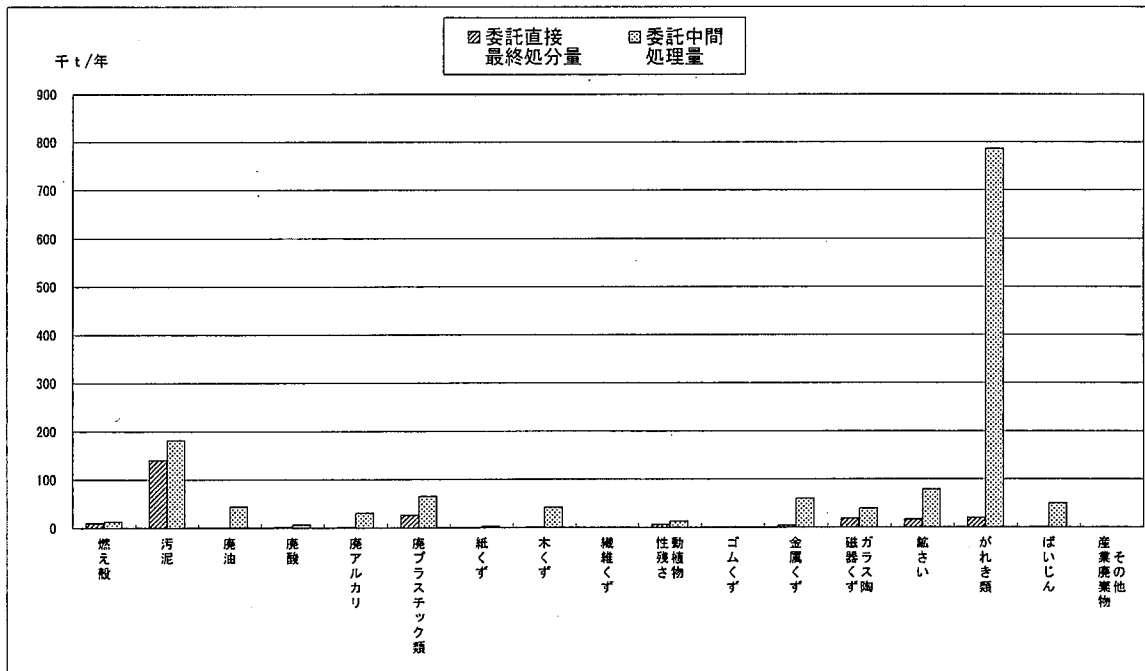
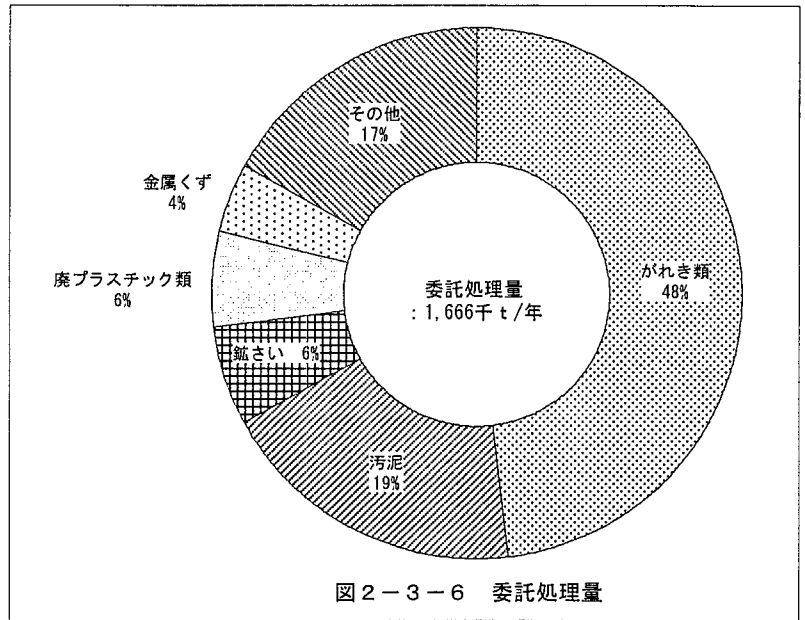
自己減量化率 (上右図)・・・自己中間処理量に対する自己減量化量の割合 (%)

3 委託処理状況

委託処理量は 1,666 千 t であり、排出量の 51% を占めている。

種類別にみると、がれき類が 806 千 t (48%) で最も多く、次いで、汚泥が 322 千 t (19%)、鉍さい 95 千 t (6%)、廃プラスチック類 92 千 t (6%) などとなっている。

委託処理量 1,666 千 t のうち、85% にあたる 1,415 千 t が中間処理されており、15% にあたる 251 千 t が直接最終処分されている (図 2-3-6、図 2-3-7)。



(千t/年)	計	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	動植物性残さ	ゴムくず	金属くず	ガラス陶磁器くず	鉍さい	がれき類	ばいじん	その他産業廃棄物
委託処理量計	1,666	23	322	45	9	32	92	3	43	0	19	1	65	58	95	806	52	0
	(100%)	(1%)	(19%)	(3%)	(1%)	(2%)	(6%)	(0%)	(3%)	(0%)	(1%)	(0%)	(4%)	(4%)	(6%)	(48%)	(3%)	(0%)
委託直接最終処分量	251	10	140	1	2	1	26	0	1	0	6	1	5	19	17	20	1	0
	(100%)	(4%)	(56%)	(0%)	(1%)	(1%)	(11%)	(0%)	(1%)	(0%)	(3%)	(0%)	(2%)	(8%)	(7%)	(8%)	(1%)	(0%)
委託中間処理量	1,415	13	182	44	7	31	65	3	42	0	13	0	60	39	78	786	50	0
	(100%)	(1%)	(13%)	(3%)	(0%)	(2%)	(5%)	(0%)	(3%)	(0%)	(1%)	(0%)	(4%)	(3%)	(6%)	(56%)	(4%)	(0%)

図 2-3-7 種類別の委託処理量の内訳

4 最終処分状況

最終処分量は 345 千 t となっており、排出量の 11 % を占めている。

種類別にみると、汚泥が 149 千 t (43 %) で最も多く、次いで、がれき類が 44 千 t (13 %)、廃プラスチック類 42 千 t (12 %)、ガラス陶磁器くずと鉱さいが 34 千 t (10 %) となっている(図 2-3-8、2-3-9)。

最終処分量 345 千 t の処分先を主体別にみると、業者等による委託最終処分量が 340 千 t (99%) とそのほとんどを占めている。

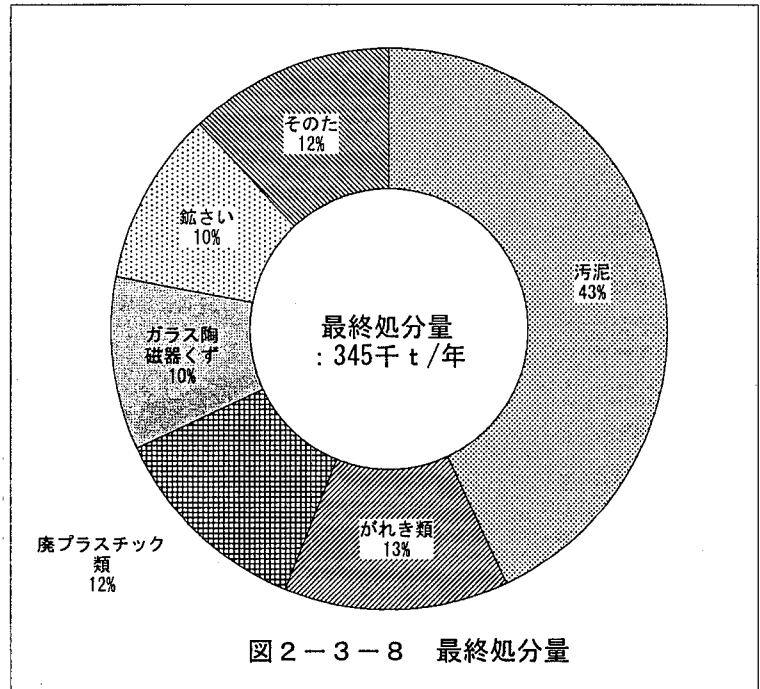
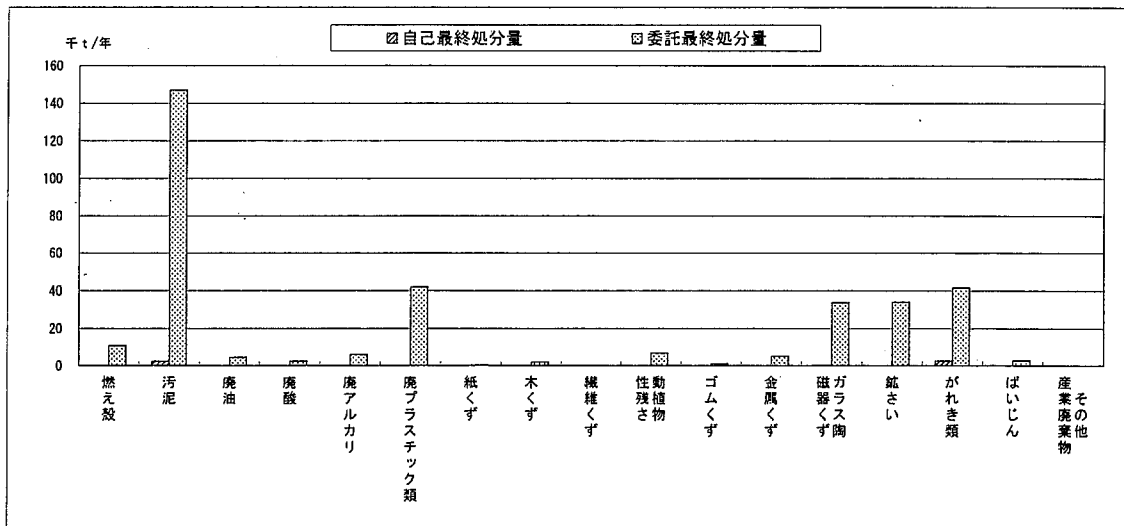


図 2-3-8 最終処分量



(千t/年)	計	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	動植物性残さ	ゴムくず	金属くず	ガラス陶磁器くず	鉱さい	がれき類	ばいじん	その他産業廃棄物
最終処分量計	345	11	149	4	2	6	42	0	2	0	7	1	5	34	34	44	3	0
	(100%)	(3%)	(43%)	(1%)	(1%)	(2%)	(12%)	(0%)	(1%)	(0%)	(2%)	(0%)	(1%)	(10%)	(10%)	(13%)	(1%)	(0%)
自己最終処分量	5	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0
	(100%)	(0%)	(44%)	(1%)	(0%)	(0%)	(0%)	(0%)	(1%)	(0%)	(0%)	(0%)	(0%)	(4%)	(0%)	(49%)	(0%)	(0%)
委託最終処分量	340	11	147	4	2	6	42	0	2	0	7	1	5	34	34	42	3	0
	(100%)	(3%)	(43%)	(1%)	(1%)	(2%)	(12%)	(0%)	(1%)	(0%)	(2%)	(0%)	(2%)	(10%)	(10%)	(12%)	(1%)	(0%)
うち委託直接最終処分量	251	10	140	1	2	1	26	0	1	0	6	1	5	19	17	20	1	0

図 2-3-9 種類別・処分主体別の最終処分量

5 再生利用状況

再生利用量は1,131千tとなっており、排出量の35%を占めている。

種類別にみると、がれき類が824千t(73%)で最も多く、以下、鉱さいが74千t(7%)、金属くず60千t(5%)などとなっている(図2-3-10、図2-3-11)。

再生利用量は、自己中間処理後再生利用量29千t、委託中間処理後再生利用量1,012千t、自己未処理自己再生利用量89千tに区分される。

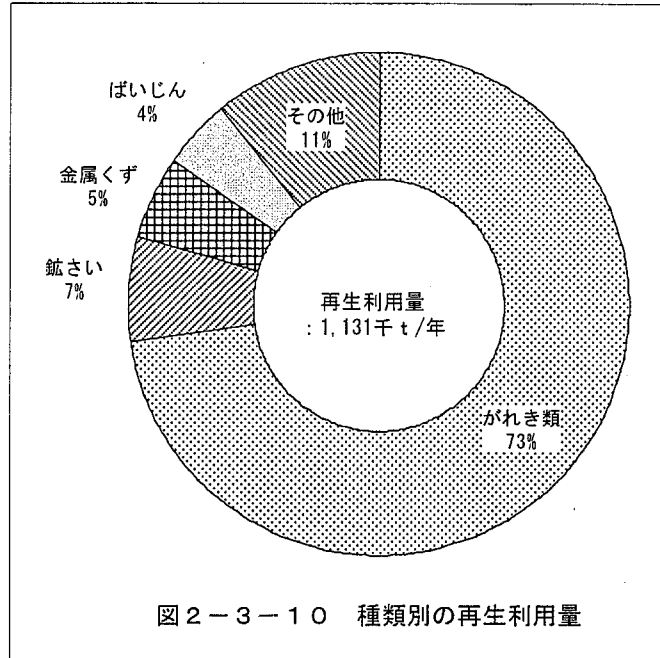
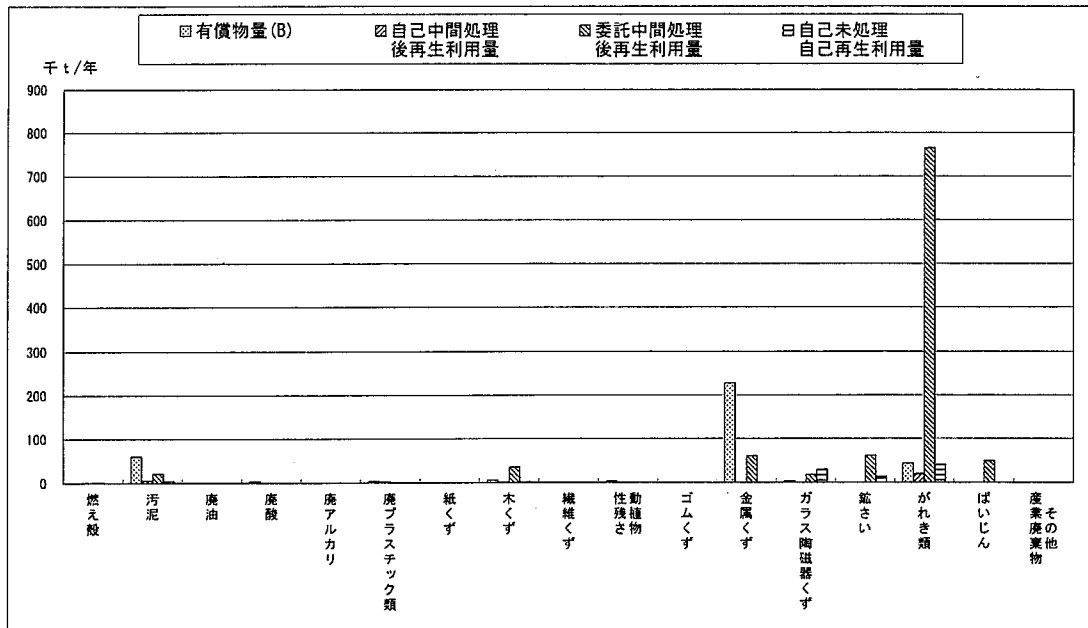


図2-3-10 種類別の再生利用量



(千t/年)	計	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	動物性残さ	ゴムくず	金属くず	ガラス陶磁器くず	鉱さい	がれき類	ばいじん	その他産業廃棄物
再生利用量(A)	1,131	3	31	0	0	0	4	0	38	0	1	0	60	47	74	824	49	0
	(100%)	(0%)	(3%)	(0%)	(0%)	(0%)	(0%)	(0%)	(3%)	(0%)	(0%)	(0%)	(5%)	(4%)	(7%)	(73%)	(4%)	(0%)
自己中間処理後再生利用量	29	1	6	0	0	0	3	0	1	0	0	0	0	0	0	19	0	0
委託中間処理後再生利用量	1,012	2	21	0	0	0	1	0	35	0	0	0	60	18	61	765	49	0
自己未処理自己再生利用量	89	0	4	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	29	13	40	0	0
資源化量(A)+(B)	1,482	3	91	1	3	0	8	0	43	0	4	0	288	50	74	867	49	0
有償物量(B)	352	0	60	1	3	0	4	0	6	0	3	0	228	3	0	43	0	0

図2-3-11 種類別の再生利用量等